



○社会人

たより 91 号で「期待よりも不安」ということを書きました。社会に出れば何らかの仕事をして自分の生活を維持していかなければなりません。報酬（給料）のために仕事をするという考え方は少し寂しいですが、これも一つの現実です。仕事をする限りはそれなりの苦勞も伴うことでしょう。OCの開会のあいさつで私は高校生たちに「どんな仕事に就いてもその仕事なりに大変なことはありますが、子どもの成長を見守る保育士という仕事は大変さよりももっと大きいやりがいを感じることができる素晴らしい職業です。」というふうにPRしています。現実は大変なときの方がやりがいを感じるときよりも多いと思います。本校では大変なことに出会ったときにめげず、やりがいを求めて困難を克服していく力を身につけた学生を育てたいと思っています。

先日、就職先事業所の人事担当の方がご挨拶に来校されました。その話の中では採用した人材をどのように育てていくか、その人のよさ・特長や個性をどう生かしていくかという話題が挙がりました。一つの組織の中の人員をどういう部署に配置すれば、それぞれその人の力が十分に発揮されるだろうかということを担当者は苦心します。しかし人員は限られていますので、必ずしも雇用者・働き手双方が 100%満足できる配置ということはほとんどないでしょう。そこで大切になってくるのは配置された場所で本人が自分の特長をどう生かすかということがあると思います。

性格は人それぞれ違います。外交的で周りを明るくしてくれる人もいれば、内向的だがじっくりとものごとに取り組める人もいます。器用で仕上げが速い人もいれば、不器用だがていねいな人もいます。「専門家になるには不器用な方がいい。」ということも聞いたこともあります。どちらがよくてどちらが悪いということではありません。“みんな違って、みんないい”ですね。しかし共通することもあります。その中の一つに「前向きな気持ち」を挙げたいと思います。「思い描いた就職ではなかった。」「希望した部署ではなかった。」ということもあるでしょうけれども、前向きな気持ちだけは失わないようにしたいものです。

「期待よりも不安」「不安を力に変える」という前回の話題に戻りました。

自校自賛

13 日のOCには高校 2 年生の参加があり、おもちゃ作りが行われました。紙コップとストローを使った“カエル”です。鳴き声も出る子どもが喜びそうな楽しいキャラクターが完成しました。この時期はカエルもメダカも残念ながら冬眠していますが、「冬来たりなば、春遠からじ」ということで春の温かさとおもちゃに喜ぶ子どもたちの顔を想像しながら楽しく制作しました。学生スタッフは 2 年生の青木さんと岩井さんです。自己紹介は「今年頑張ること」で、二人とも 4 月からの新生活を思い浮かべて目標を述べていました。

